



NO. 38号
 <編集発行>
 新潟シティガイド
 <発行人>
 小池上 護

代表就任挨拶



小池上 護

私の先祖は江戸末期の文化文政時代に出雲の国、石見から新潟市横七番町に居を構え、「小熊屋」と称して廻船問屋を営んでいました。明治一三年、上大川前通八番町に転居し本家として現在に至ります。明治の戸籍法施行後、池上家から養子を迎えた事を機に小池上の姓にしました。私の家はその分家で、西大畑に住んでいて、最も近い聖園幼稚園（新潟カトリック教会隣。今は駐車場）に通っていました。その当時、馬に跨った人が枳谷小路を通ったり、近くのだつぱり坂をジープが上っているのを見ました。その坂の頂点から付近で採れたカボチャ

を転がして遊んでいました。ガイドエリアを希望するに際して西大畑か下町か迷いましたが、下町の迷路のような複雑さに興味があり、迷わず歩ける様にしたいと下町のガイドを担当させて頂くことにしました。

営業職として培った「約束の時間を守る事」、「頼まれ事は試され事（頼まれた事はお客様の期待以上にしてお返しする）」を糧にして、この二年間、無心に学んできました。諸先輩が実地ガイドをしながら教えてくれる、溢れんばかりの情報を、聞き漏らしの無い様、必死にメモを取りながら雪道を歩いたのが始まりでした。下町エリアのガイドはスタート地点が「みなとびあ」である事が多く、それまでは旧税関としか見ていなかった場所に、新潟市の原点ともいえる宝が存在することを認識しました。お客様にも紹介したい話が山ほどあるこの場所

- ・聞いたことは忘れる
- ・見たことは思い出す
- ・体験したことは理解する
- ・発見したことは身につく

で、二〇分を超える説明をしたら、その後のコース説明が不十分になる事も学び、先輩方から教わる事の多さに圧倒されています。この二年間で諸先輩に追いつけるような話はまだまだ出来ませんが、嬉しい事にガイドを終えた後に自然に湧く拍手が、知識の習得と接遇への学びを喚起させてくれます。

ガイドをした最後にお客様に必ずお話しするのは、今日の話が「面白かった」「ためになつた」「こんな話なら身近な人にも聞かせてあげたい」と思った方は是非、親戚知人あるいは身近な方に「新潟シティガイドに案内してもらったけど、新潟にこんなすごい所があり、お酒・米だけじゃなく日本一も数多く、知らない話ばかりで新潟が自慢したくなつた。一度案内してもお伝えします。新型コロナウィルスで遠方からのお客様は

望めませんが、近くのお客様こそ来ていただきたいものです。かく言う私も実は「新潟？ 見るとこ無いよ。」などと言っていたのですから。新潟市の観光に貢献できる新潟シティガイドの存在を高めたいと思います。



小池上家の蔵
 手前が江戸時代の蔵、奥が明治19年築の蔵です。左隣の駐車場にも蔵が1つありました。

県政記念館にはある「偶然」が味方した

新潟県政記念館副館長



山崎 雄 (賛助会員)

表題の「偶然」として取り上げた一つ目は、当館が国の重要文化財に指定される時、たまたま「明治一〇〇年」昭和四三年（一九六八）でした。昭和七年、現在の市役所本



庁舎の場所に三代目の県庁ができ、当館は県会議事堂としての役目を終えます。その後「新潟郷土博物館」に始まり、諸団体等に利用されてきましたが、立地条件の良さなどの理由で、この敷地を欲しいという要望者がでてきました。文化財保護団体はそれに反対。そして、亘知事に説明し要望者に納得してもらい、ようやく残すことにはなりましたが、残すとなると劣化した建物の改築が必要でした。しかし、県には資金がない。でも国の指定となれば国から修理費を出してもらえます。そこで、文化財指定運動を起こす。折しも「明治一〇〇年」という年、国が重文指定を進めていた頃で、まさに運がよかつたと言えます。

二つ目の「偶然」は、新潟地震の時には地下に魔物がいたと言われていたことです。新潟地震の時、文化庁に「顕著な被害は確認できなかった」と報告ができた原因について、耐震調査にいられた専門家の方に教えていただきました。新潟地震の揺れと館の揺れが一致しなかったことで、共振して揺れが増幅することがなかった（熊本地震の検証で判明）。また、敷地地層が、振幅が増幅するという厚さ一〇m前後でなく、一六〜一七mもあったことで揺れがボケて増幅されなかった。そのことから、「地下に魔物がいたため顕著な被害がなかった」という人もおります。

しかし、当館は竣工後一四〇年近く経過した建物で損傷が激しく、今後数年をめどに、休館を伴う修復と耐震工事を計画しております。

私たちは新型コロナウイルス感染症を正しく理解し、開館しながら人に感染させない、感染しないと考え、活動を行わなければなりません。本当に大変な時代になりますね。

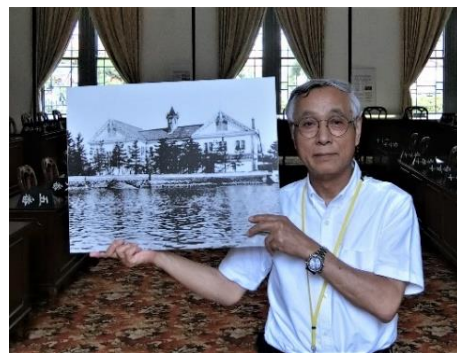
最後に、今後もぜひ貴会の活動の場として、今まで以上にご利用いたなければ幸いです。

始まりは昨年末「閉店後のライオン像はどうなりますか。」という私の問い合わせだった。「ライオン像につきましては未定でございます。」後日、判ったのだが、この返信をくれた方は長年、店内アナウンサーを担当していた女性だった。そして十一月、今までのガイドについて、その想いを書き新潟日報に投稿した。数日後、掲載されると朝から「読みま



稲村孝夫

三越のライオン像について



したよ。」と多くの方から電話やメールを頂いた。

一週間後、日報の記者から特集記事を組む為、私に会って取材したいという電話。約束の日、記者が来宅。ライオン像への想いや、ガイドの事などを一時間半、取材して帰った。

年明けの一月。日報一面に「新潟三越閉店ライオン像どこに」「残して」本紙に投稿と大きく掲載された。関連には記者が付けて取材した日体大と三囲神社のライオン像が紹介されていた。三月中旬「ライオン像次はNEXT21」「ライオン像も喜ぶ」の記事が載った。一つの投稿がきっかけで、残る事になった「ライオン像」ガイド仲間も一緒に喜んでくれた。

閉店の前日、ガイドに使う為、外観写真撮りに出かけた。偶然、三越入口付近にいた高橋店長を見かけご挨拶をした。私の知人が彼と同じ町内でよく知る間柄と聞いていた。忙しい中、「ライオン像」の事で話が弾んだ。ふと店長の襟元に金色のライオン像のバッジを見つけた。「このバッジを付けているのは新潟では私一人なんです。」と誇らしげに語ってくれた。



十数年前目にしたトラファルガー広場のライオン像。数年前、まち歩きで訪れた三囲神社。ここで子供の頃、よく遊んだと言うガイド仲間。「ライオン像」でこれだけの繋がりがあった。感染予防の為、移設した「ライオン像」の除幕は最少規模の関係者で行った。閉店した新潟三越の方を向いて鎮座している「ライオン像」ガイドする日を楽しみにしている。



三年程前の事、当時「企画委員会」のメンバーでした。委員会活動として沼垂地区で何か企画できないかと議題になりました。私自身、沼垂エリアメンバーでもありましたので企画立案する事となり、頭をひねったものです。そもそも私が沼垂エリアに入った理由は山ノ下生まれであり、街並みに愛着を持っていた事です。テーマは「ほろ酔い」です。アルコール飲料を前提にした街歩きで参加者が集まるかとも思いましたが、発酵の町・沼垂を紹介するのに協力頂けそうな施設もあり企画をスタートさせました。

メインの見学施設は、峰村醸造・沼垂ビール・今代司酒造でそれぞれ見学の要請に伺いましたら、受け入れ時間帯が異なり組み合わせに苦慮しました。さて参加者を一般募集したところ三〇名近い申込みで、びっくりしました。



須田秀夫

特別企画 「沼垂ほろ酔いコース」 平成二九年の想い出

(会員も半数程いましたが) 当日は、参加者を二班に分け小畑さんと私がガイドを担当、昼過ぎに「東地区総合庁舎」をスタートしました。先ずは、「沼垂定住三〇〇年記念の碑」。沼垂の町は江戸時代に阿賀野川の川欠け等により町が浸食、五〇年間で四度の町移転を余儀なくされ約三三〇年前にようやく現在地に定住した。当時の苦労が偲ばれる記念碑です。



その後、町並み散策をして明治三八年創業でお客様第一の味噌作りをしている峰村醸造で工場見学。販売所ではお土産を買われたお客様も多くおられました。次の沼垂ビルでは三種類のクラフトビールを飲みながら、高野社長さんより「発酵の町・沼垂」というブランドをアピールするため、沼垂ならではの小規模クラフトビールを立ち上げた意気込みを話して頂きました。

最後は明治三〇年に現在地で創業した今代司酒造を見学

し説明を受けた後 皆さん目的の試飲を楽しみました。沼垂の街並みも下町と同様に寂しくなっていますが、沼垂を愛する企業が頑張っている様子を紹介でき、これからの活性化に繋がればと思っています。



福山忠利

茶寮六華(砂丘館)でお茶しませんか?

西大畑にある異人池のどつぺり坂を登ると砂丘館(旧日本銀行新潟支店長役宅)があります。茶寮六華は入って左の応接室です。家具、内装は松坂屋上野支店の仕様で壁紙

が素敵です。庭の作庭者は不詳らしいですが、築造は地元

の長生園とのことで、クロマツを一定方向に傾ける珍しい手法です。



美術・文化関係の本や絵画が多くあり、小さな美術館・図書館のようです。お茶(珈琲が美味です)を飲みながら読書し絵画や庭の鑑賞も気軽にできる喫茶です。

平成十七年の指定管理者公募で、芸術・文化施設にした

いとこの提案をした新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体による管理運営がスタートして十五年目となり、キャッチフレーズ「歴史の厚みと心を揺さぶる芸術に会える」です。

佐藤家の雛人形展、赤塚・高森神楽、古町花街の保存活動、落語・津軽三味線などの公演、地元の若手作家の作品展覧会と講演、交流などの企画事業を通じて古町花街、西大畑、旭町などのまち歩き、



相田敏之介

私の街案内について



まちづくり等を指導しています。ここでの活動は、「芸術文化はコストではない、企画だよ！」と情熱を持っている人達との話し合える場所となっています。

私は建造物の由来や材料、歴史などは案内書やパンフレットに譲り道中のさりげない

事物を説明し、次の箇所まで

話を持っていく様に心掛けています。今回は県内の信号機について話をしたい。現在県内交差点信号約五一〇〇基(一ヶ所に四ヶ所あっても一基と計算)県民一人当たりで全国六番目に多い。交差点以外で歩行者専用の押しボタン式信号が約一一〇〇基。日本では昭和五

年日比谷交差点が最初であり、新潟市では昭和十一年古町十字路が初めてで、二番目は昭和二十年代に萬代橋東詰、三番目は当時の県庁前(現在の市役所前)であった。初め県内の信号機は横型であったが昭和四九年六日町(現南魚沼市)で縦型がお目見えした。お客様の地域などはどちらの型かと質問すると話は広がっていく。



古町十字路



昭和 30 年代豪雪の古町

山市の中通りは横型が目につく。新潟では中央区の自動車教習所でも一部に横型が見受けられる。

新潟県内は雪の多いことで知られているが、新潟市を含む海岸部は少ない。同じ海岸部でも村上、柏崎、直江津などは多いが、これは新潟市が冬の季節風が吹く冬場は佐渡の島かげになる為と言われている。

新潟は昭和三八年の豪雪が有名だが中心部の中央区では終戦の年の昭和二十年と昭和三六年が忘れられない。当時まだあった東堀、西堀なども屋根からの雪や道路除雪の雪で堀が全部埋まり橋がなくなるとも向側へ自由に往来できた。

因みに新潟市の記録では日降雪最大記録は昭和四四年一月二日六三 cm、積雪最深記録は昭和三六年一月十八日一二〇 cmであった。

私の説明は新聞記事で言うなら三面記事である。

民泊「OTONARI」

(おとなり)

佐藤 祐美子

下町の旧小澤家住宅の近くに民泊がオープンしたと聞いて、是非紹介出来たらと見学をお願いしました。

ここは一棟貸しで一回に一組のお客さんが宿泊するところで民泊になり、ゲストハウス(いろいろな人達と一緒に泊まる)とはカテゴリーが違うとのことでした。

建物は築一四五年の蔵とその隣家をリノベーションして泊まれるようになってます。

元々あった金庫や棚をそのまま活かしてキャビネットや食器棚に。フローリングの客間にある木の長いローテーブルは、洗った着物を広げて乾かす板だったそうです。



使い勝手のよさそうなキッチン、お風呂場の奥には何と

言っても、文化財になっている蔵。この蔵に泊まれるところが貴重な体験です。

蔵の中に入ると少しひんやりする感じで、床と階段は直したようですが、壁はそのままで天井の梁も見ごたえありました。



二階がベッドルームになっていて、天井が少し低くベッドもゆつたりで予備の寝室もあり、六人まで宿泊できるそうです。ご家族や友人と贅沢な時間を過ごすことができそうです。素泊まりなので近くの魚屋で魚を買って料理をしたり、古町に行くのもよいでしょう。

県外の方や県内にいる外国人方などが利用されたそうで、民泊専用のサイトから予約される人が多いそうです。

近くには、「旧小澤家住宅」「みなとぴあ」など文化施設があり、新潟シティガイドの実施している「予約のいらないまち歩き」もあります。ご案内しました。私も県外の友

達が来た時に一緒に泊まってみたいと思いました。



広報からお願い

- 1 広報紙「新潟シティガイド」の原稿依頼
広報紙の紙面は、会員の皆さんの投稿原稿で成り立っています。原稿依頼をお願いすることがあると思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。
- 2 「新潟まち歩きブログ」への投稿依頼
「新潟シティガイド」をより多くの方に知って頂くため、投稿をよろしくお願いいたします。

《編集後記》

佐藤 祐美子

今年に入り新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり、経済活動をはじめ多くの人々の生活に影響をあたえ、物の考え方や価値観にも変化が見られるようになりました。

私たちのガイド活動も中止となり、これまで活動報告が中心であった広報紙は、施設の紹介や、今まで温めてきたそれぞれの思いなどを書いていただきました。

嘆いてばかりいられませんが、ピンチをチャンスへ変え、この様な時こそ、人の温かさに触れ、上を向いて深呼吸し、新しい気付きもあるでしょう。

今後は密接・密集に気を付け、新しいガイドスタイルをすすめていくこととなります。

役員も一新して試行錯誤の日々ですが、一歩前に進めるようみなで力を合わせて目と心で楽しめる広報紙をつくっていきたいと思います。

* 次回の広報紙は来年四月発行予定です。

